

3学期も始まって1か月が過ぎました。今年度も残り1か月半になりました。各学年、学年の総仕上げに向けて、活動しています。

先日、卓球の全日本選手権が行われました。この卓球に関して、11月に、第3回パリ五輪日本代表選考会を兼ねた卓球の全農カップTOP32が行われ、パリオリンピックに向けての各選手の獲得ポイントが話題になっていました。ただ、私は、その決勝戦の顔合わせに興味がありました。早田ひな選手と平野美宇選手です。同年代対決ということで、話題になっていましたが、もう一つ、オリンピックへの思いが両者とも強いのではないのかということで、この顔合わせを聞いた時、どんな思いで戦うのだろうと思いました。

平野美宇選手は、東京オリンピックの卓球日本代表の選手です。しかし、その前のリオデジャネイロオリンピックの時は、三人の代表枠の四番手だったので、代表選手にあと一步のところではなれませんでした。団体メンバーがもしケガや病気で出られない時の補欠メンバー、いわゆる帯同メンバーとして行きました。自分は試合に出られませんので、裏方として荷物運びをしたり、練習相手になったり、玉拾いをしたりしたのです。この時のことを、平野さんはインタビューでこう答えています。「生きてる中で、一番悔しかった。」と。実は、伊藤美誠選手とは5歳からダブルスを組んでいて、13歳の中学生の時、ワールドツアー女子ダブルスで最年少優勝し、「みうみま」コンビとして有名になりました。伊藤美誠選手は、この大会で代表として出場し、団体銅メダルを獲得しています。いろいろな思いがあったと思いますが、それ以上は語っていません。伊藤選手のメダル獲得については、一緒に喜んだと報道されています。

ただ、リオに行く前は、落選したのに行く意味が分からないと母に話して泣いていたそうです。でも、オリンピック期間中、他の選手のプレーを観察し、自分のプレーを見直し、粘り強く打ち合い、相手のミスを待つ今までの守備型のプレーでは格上の選手に勝てないと、自ら積極的に仕掛ける高速ラリーの超攻撃型に変更しました。これまで積み上げたものから、リスクを冒して新しいものに挑戦したのです。フォアハンドの威力とスピードを増すため、ウエイトトレーニングに取り組みました。

オリンピック2か月後のワールドカップでは、中国製が欠場の中、準決勝で伊藤美誠選手を破り、優勝しました。同じ年の全日本選手権では、3連覇中の石川佳純選手を破り、16歳9か月で最年少優勝しました。参加枠が広いアジア大会では（中国勢が多く出場するという）、当時世界ランク1・2・5位の中国選手に勝ち、最年少で優勝しました。そして、東京オリンピックの団体メンバーに選ばれたのです。代表決定の時のインタビューです。「ずっと夢見てきた舞台なので、東京オリンピックですごく戦いたいという思いが強い。オリンピックは、小さい頃からの夢で目標なんです。」と答えていました。

実は、早田ひな選手は、東京オリンピックの時に、かつての平野美宇選手と同じ四番手でしたので、帯同メンバーとして参加しました。また、9月中旬の国際大会で左腕を痛め、2週間ラケットが握れない時期がありました。この大会は、その復帰戦だったのです。



二人の決勝戦には、夢を追うその意志の強さが感じられました。